

東北地方 1 か月予報

(1 0 月 1 4 日から 1 1 月 1 3 日までの天候見通し)

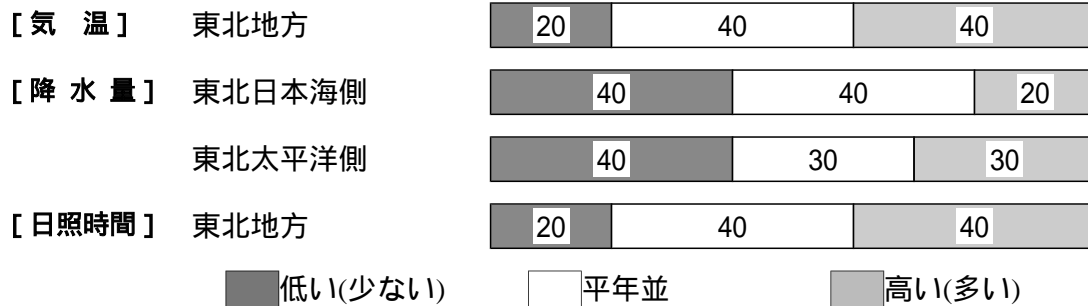
平成 1 8 年 1 0 月 1 3 日
仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

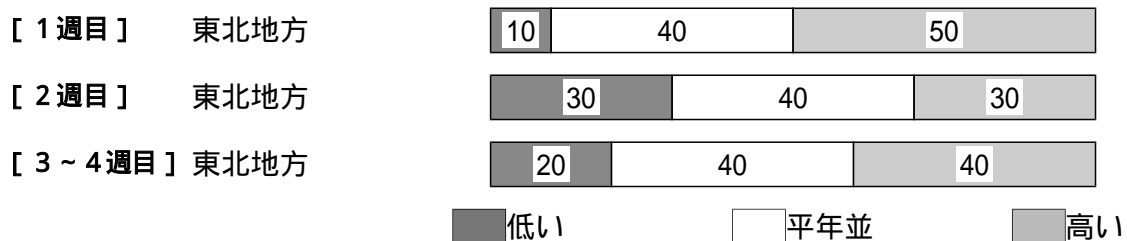
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
天気は数日の周期で変化しますが、東北地方は平年に比べて晴れの日が多いでしょう。平均気温は平年並または高い確率がともに 4 0 % です。降水量は東北日本海側で平年並または少ない確率がともに 4 0 % です。日照時間は東北地方で平年並または多い確率がともに 4 0 % です。

週別の気温は、1 週目は高い確率が 5 0 %、3 ~ 4 週目は平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



< 予報の対象期間 >

1 か月 : 1 0 月 1 4 日 (土) ~ 1 1 月 1 3 日 (月)
1 週目 : 1 0 月 1 4 日 (土) ~ 1 0 月 2 0 日 (金)
2 週目 : 1 0 月 2 1 日 (土) ~ 1 0 月 2 7 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 1 0 月 2 8 日 (土) ~ 1 1 月 1 0 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 1 0 月 2 0 日
3 か月予報 : 1 0 月 2 5 日 (水) 1 4 時

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 18 年 10 月 13 日 仙台管区气象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月 (10 月 14 日～11 月 13 日) :

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北地方は平年よりも晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並または高い確率がともに 40%です。

1 週目 (10 月 14 日～10 月 20 日) :

東北地方は高気圧に覆われて、晴れる日が多いですが、期間の後半は東北日本海側の北部で気圧の谷の影響により雨の日がある見込みです。

平均気温は高い確率が 50%です。

2 週目 (10 月 21 日～10 月 27 日) :

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北地方は平年よりも晴れの日が多いでしょう。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3～4 週目 (10 月 28 日～11 月 10 日) :

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

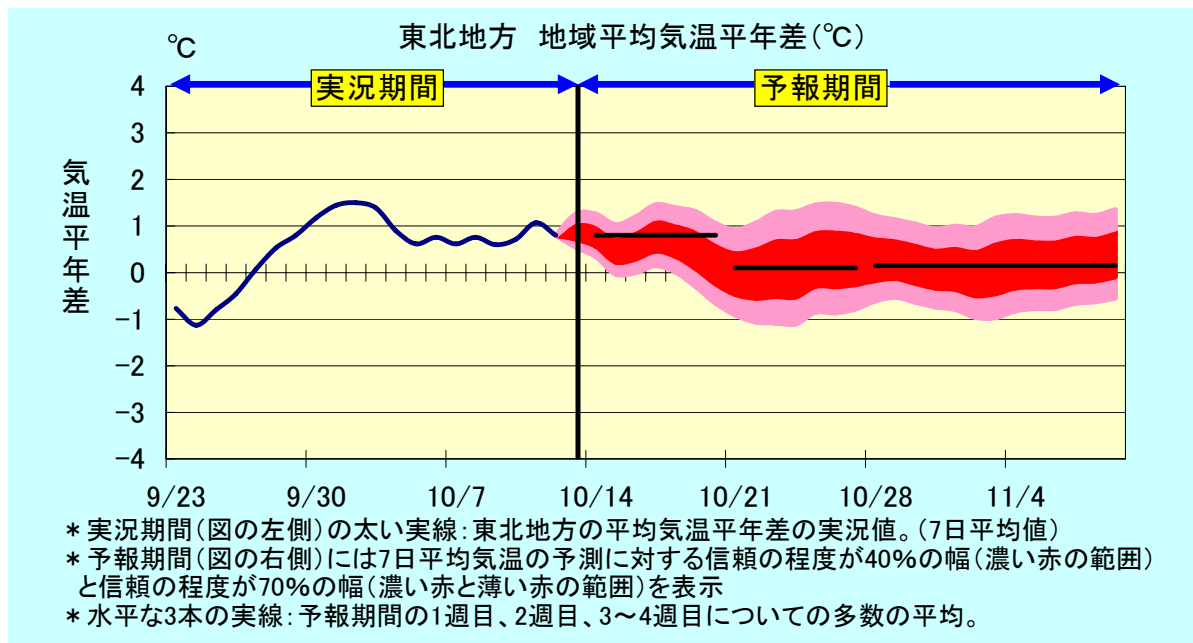
平均気温は平年並または高い確率がともに 40%です。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	12.4 日	3.4 日	3.4 日	5.6 日
東北太平洋側	17.0 日	4.1 日	4.5 日	8.4 日

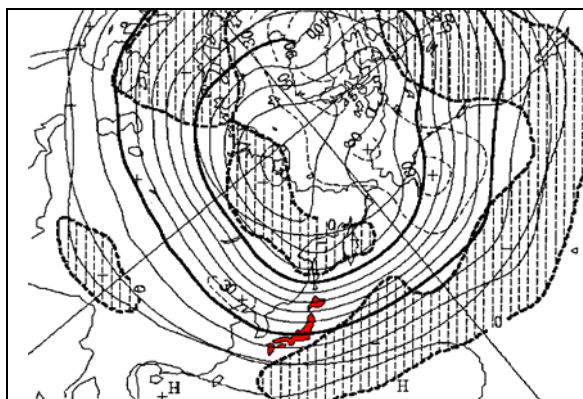
2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1 週目は平年を上回り、2 週目以降は平年並付近を予測しています。なお、数値予報の信頼度は小さい。



3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本付近はユーラシア大陸から太平洋にかけて広がる正偏差域に覆われている。一方、太平洋の北緯30度付近から日本の南海上にかけてと、シベリア方面では負偏差が分布。このため、気温は平年並か高くなる可能性が大きい。日本付近の偏西風の流れはほぼゾーナル。このため、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化する見込み。



1か月平均 500hPa 予想天気図

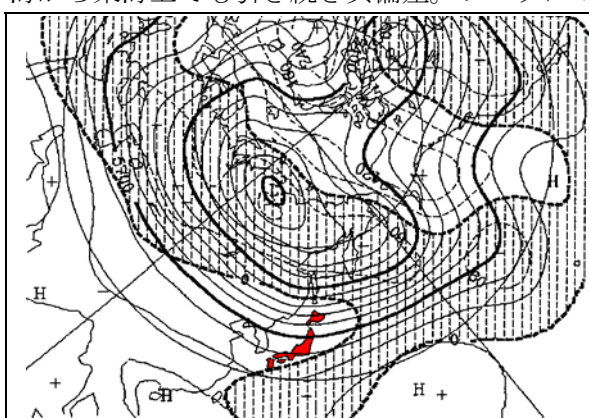
(図の見方は1, 2週目と同じ

ただし平年差の間隔は30m毎)

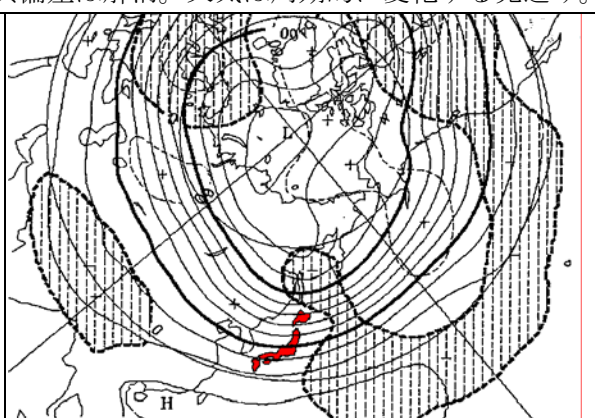
1週目: 日本付近は正偏差。一方、太平洋やシベリアでは負偏差。南海上の負偏差は熱帯擾乱に対応。天気は周期的に変化する見込み。気温は高い可能性が大きい。

2週目: 日本付近は引き続き正偏差。オホーツク

海から東海上でも引き続き負偏差。シベリアの負偏差は解消。天気は周期的に変化する見込み。



1週目平均 500 hPa 予想天気図



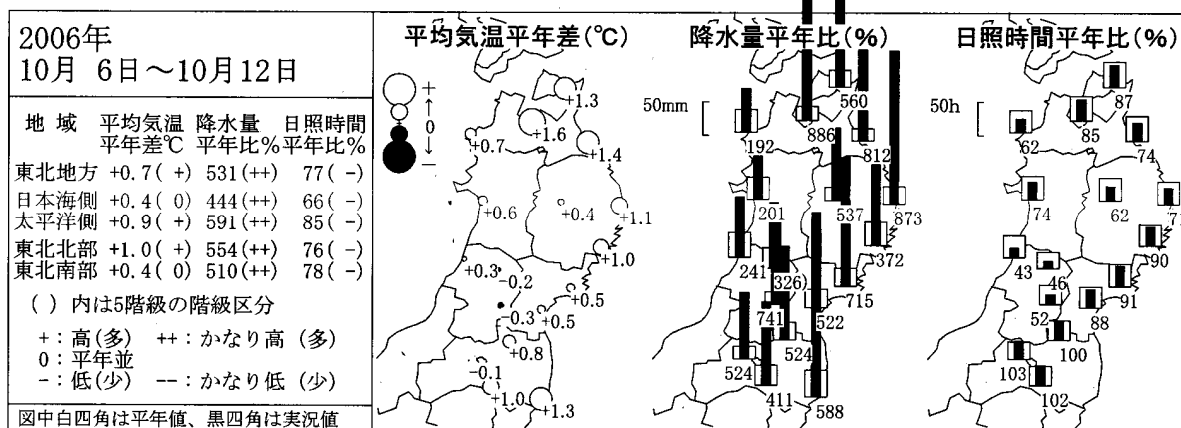
2週目平均 500 hPa 予想天気図

実線は、等高度線（間隔60m）、点線は、平年差（間隔60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間（10月6日～10月12日）の天候の経過

この期間、6日から7日にかけて低気圧が非常に発達しながら関東の東海上から三陸沖を北上したため、東北太平洋側を中心に大雨となり、三陸沿岸では暴風が吹き荒れて多くの被害が発生した。6日の夜、第七千代丸が女川湾付近で座礁し、乗組員の多くが行方不明となっている。この他、宮城県や青森県を中心に農水作物への被害、浸水害が発生した。6日から7日にかけての降水量は小名浜で240.5mm、最大瞬間風速は大船渡で40.2m/sを観測した。8日になると低気圧は根室沖まで達したが、引き続き東北地方では西風が強く、東北日本海側ではしづめた。9日以降は天気が周期的に変化した。平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北地方で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

< 参考資料（ 平年並の範囲等 ） >

（ １ ） 30 年平均値（ 向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温 ）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温()		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
青森	10.0	121.0	131.7	12.3	10.9	9.0
深浦	10.9	157.7	111.7	13.1	11.8	9.9
むつ	9.7	113.1	145.0	12.0	10.6	8.7
八戸	10.1	72.8	159.6	12.5	11.0	9.1
秋田	11.0	170.6	125.8	13.3	12.0	10.0
盛岡	9.1	99.6	141.7	11.5	10.0	8.1
大船渡	11.4	124.1	150.7	13.5	12.2	10.5
宮古	10.8	94.0	158.7	12.9	11.5	9.9
仙台	12.4	81.8	155.8	14.6	13.2	11.4
石巻	11.7	87.1	163.1	14.0	12.5	10.7
山形	10.6	74.2	125.7	13.0	11.4	9.5
新庄	9.6	175.9	91.5	12.1	10.5	8.5
酒田	12.2	192.2	122.3	14.4	13.1	11.2
福島	12.2	76.6	144.3	14.5	13.0	11.3
若松	10.4	70.4	113.4	12.9	11.2	9.3
白河	10.8	83.5	153.5	13.0	11.5	9.9
小名浜	13.8	118.0	165.4	15.9	14.6	12.9

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（ ２ ） 1971 ～ 2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（ 比 ）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ～ +0.4	84 ～ 110	95 ～ 106
東北日本海側	-0.5 ～ +0.5	92 ～ 107	95 ～ 106
東北太平洋側	-0.5 ～ +0.5	69 ～ 120	96 ～ 105

（ ３ ） この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.8 ～ +0.5	-0.7 ～ +0.7	-0.6 ～ +0.7
東北日本海側	-0.8 ～ +0.6	-0.7 ～ +0.7	-0.6 ～ +0.7
東北太平洋側	-0.7 ～ +0.5	-0.6 ～ +0.7	-0.6 ～ +0.7

< 参考資料（ 利用上の注意 ） >

（ １ ） 気温（ 降水量 ）等は、「低い（ 少ない ）」「平年並」「高い（ 多い ）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（ それぞれ 3 3 % ）となるように決めてあります（ 気候的出現率と呼びます ）。

（ ２ ） 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 1 0 % 以下や 6 0 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（ 3 0 % 、 4 0 % ）の確率しか付けられません。

（ ３ ） 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（ 少ない ）場合は「平年に比べて多い（ 少ない ）」、また平年の日数と同程度に多い（ 少ない ）場合には「平年と同様に多い（ 少ない ）」と表現します。なお、単に多い（ 少ない ）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（ 少ない ）ことを意味します。